

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福島県立医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	小児造血細胞移植インテンシブコース（インテンシブ）（テーマ①）						
対象職種・分野	医師						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・造血細胞移植に関わるさまざまな専門の医療関連職種が連携し合って治療や支援を進めていくチーム医療にリーダーとして関われる医師 ・疾患やそのリスクに応じて移植適応を判断し、適切な移植ソース、移植前処置、GVHD予防を設定し、適切な移植計画を立案できる医師 ・成人および小児の骨髄採取、末梢血幹細胞採取を安全な手技で実施できる医師。 ・ドナーの社会的な状況に配慮し、適切なドナーコーディネートができる医師。 ・難治性疾患に対するハプロ移植を理解し、適切に実施できる医師。 						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・本コースへの参加は日本血液学会専門医もしくは日本小児血液・がん学会専門医の取得を条件とする。 ・日本造血・免疫細胞療法学会への参加 ・日本造血・免疫細胞療法学会での演題発表1回以上、筆頭著者としての造血細胞移植関連テーマの論文執筆1編以上。 ・本教育プログラム・コースで定める以下の科目について履修し、認定医試験に合格すること。 						
履修科目等	<p><必修科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本造血・免疫細胞療法学会教育セミナーで10単位以上取得・造血細胞移植関連系統講義（5時間）（造血細胞移植総論、急性GVHD、慢性GVHD、移植合併症（感染）、移植合併症（SOS/VODなど）） ・骨髄バンクドナー安全講習受講（年2回のうち1回）・HCTCによるドナーコーディネート講義（2時間）・骨髄採取実習（3回以上） ・主治医として造血細胞移植を実施した患者のレポート報告（3件以上）・担当医（主治医以外）としてかかわった造血細胞移植を実施した患者のレポート報告（3件以上） 						
がんに関する専門資格との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・日本造血・免疫細胞療法学会認定医（日本造血・免疫細胞療法学会）の研修施設として認定。 ・日本造血・免疫細胞療法学会移植施設認定基準カテゴリー1として認定 						
教育内容の特色等（新規性・獨創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の造血細胞移植に特化した新規コース・日本造血・免疫細胞療法学会認定医を目標とし、小児がん専門医コースの上位コースとして連携させる。 ・骨髄採取や主治医としての臨床経験も重視し、レポートで評価する。 ・認定医取得に必要な学会での発表や、論文発表もコースの修了要件に加える。 ・基本的な造血幹細胞移植について計画の作成、ドナーコーディネート、幹細胞採取、前処置選択、GVHD予防、感染予防、合併症への対応、長期フォローアップについて、症例を経験しながら学ぶことが可能 ・難治症例に対するHLA不適合移植について学ぶことも可能。 						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・日本造血・免疫細胞療法学会認定医3名、学会認定移植コーディネーター（HCTC）2名が主に指導を担当する。 ・骨髄採取に当たっては血液内科医師と連携し指導に当たる。 ・末梢血幹細胞採取・保存、凍結細胞の解凍、間葉性幹細胞製剤の取り扱いについては輸血部と連携して指導する。 ・長期フォローアップについては多職種の連携を行う 						
修了者の進路・キャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> ・日本造血・免疫細胞療法学会認定医取得後は、主治医として造血幹細胞移植に関わり、さらに臨床経験を積む。 ・移植チームのマネジメント、移植カンファレンスの開催などを通じて多職種の連携に積極的・主体的に関わる。 ・造血細胞移植が必要な難治症例の多施設の連携に関わり、国内の小児造血幹細胞移植をリードするような人材を目指す。 ・外来での造血細胞移植後長期フォローアップに関わり、患者の合併症や、心理社会的問題に対応できる人材を目指す。 						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
※当該年度に「新たに」入學する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数設定の考え方・根拠	R5年にプログラムを整備し、R6年度から受け入れを開始する。多施設からの研修も受け入れ可能である。R5年度時点での福島県の日本造血・免疫細胞療法学会認定医は小児科領域で3名であり、年間1人と設定するのが適切であると考えられる。						